

駒場リサイクル市 2002 報告書

東京大学「環境三四郎」

はじめに

毎年、新歓の時期に行われる駒場リサイクル市も、今回で5回目を迎えることとなりました。本郷キャンパスに進学、または就職により配送をする人々からいらなくなった物品を引き取り、それらを新歓の時期に駒場新生に提供するこのシステムも少しは定着してきたのではないのでしょうか？

しかし、今年もリサイクル市を開催するに当たって、いろいろな問題にぶち当たりました。過剰なマンパワー、ボランティアとしての金銭の取り扱いなど、リサイクル市を運営していく上で根本となる部分での問題も多く、従来のリサイクル市のシステム自体を改善せざるを得ない部分もありました。

リサイクル市は常に存続の危機に立っています。ただでさえ新歓期には人手が要るのにリサイクル市は多大なマンパワーが必要となること、システム自体の効率の悪さ、また、そもそもリサイクル市を環境三四郎がやる意義など中止にする要素も多くあります。実際、昨年はそのような問題から開催されませんでした。しかし、「リサイクル市により提供者、新生が環境についてすこしでも考えてくれれば」、「マンパワーを削減するシステムを考えることができれば」という思いがありました。たしかに今年も昨年同様、やるか、やらないかから考えなければなりません。そして、考え抜いた末、新しいシステムの構築を条件に開催してみようという結論に至りました。

その新しいシステムはある程度は成功したと思います。しかし、課題点も多く浮上しました。そして、これらの過程を記したのがこの報告書です。この報告書では「企画報告編」「問題と対策編」「資料編」の3つからできています。過去のリサイクル市との比較を入れながら、書いていったつもりです。今までとシステムを大幅に（？）変えた今回のリサイクル市をじっくりご覧ください。

環境三四郎駒場リサイクル市 2002 プロジェクト責任者 青山勝治（東京大学理科一類）

目次

0 はじめに . . .	p. 1
企画報告編 . . .	p. 3
1 . 当日までの準備	
2 . 当日	
3 . 当日以降	
4 . 会計報告	
問題と対策編 . . .	p. 8
1 . 前回から見た改善点	
2 . 課題点	
資料編 . . .	p. 9

企画報告編

1. 当日までの準備

存続か、中止かを十分考えたうえでプロジェクトとして発足したため、発足時期としてはかなり遅れてしまった。スケジュールは以下のとおり。

2月上旬	プロジェクト発足	物品提供の広報準備
2月中旬	広報開始	物品提供受付開始
3月	物品引き取り	新入生への広報開始 プレスリリース
4月上旬	品物のチェック(ナンバリング・メンテナンス)	当日
4月中旬	配送	
6月	残った物品の処分	

1-1 オリエンテーション委員会との協力

オリエンテーション委員会(正式名称:東京大学教養学部オリエンテーション委員会、以下「OC」とする)とは、新入生のためにオリエンテーション合宿やサークル・クラスオリエンテーションを運営する自治団体である。新歓期のイベントはOCの承認が必要となる。リサイクル市では、学部交渉・資材確保の面で協力していただいた。

1-2 広報

1-2-1 物品提供の広報

リサイクル市を開催するには、まずはいらなくなった物品を提供してもらわなければならない。不用品が捨てられる前に、つまり引越しをしてしまう前に広報することが必要である。

今年募集の対象は、主に本郷進学生・東大卒業生・駒場キャンパス付近の住民のかたがたとした。手段は、ポスター・立て看・東大新聞・サークル代表者会議・ホームページ(環境三四郎)・メールとした。

これらの手段の中で、どれでリサイクル市のことを知ったかのアンケートはとっていないが、提供者の反応としてはポスターが一番多かったようである。

時期は2月中旬から行った。テスト期間が15日までで、それが終わると休み期間へと入ってしまうために12日ころに立て看を設置した。

1-2-2 リサイクル市開催の広報

リサイクル市の目的のひとつとして、新入生の新生活支援というものがある。そのため新入生がリサイクル市の存在を知らずに、商品を買ってしまったということがないように、3月の健康診断のときからプラカードを使い、本郷で広報をした。新入生への手段としてはこれ以外に立て看・ホームページも使った。

プレスリリースは3月中旬から、他大学とともに共同リリースという形で行った。しかし、取材に来たところはなかった。

1-3 受付

受付は春休みの最初の日（2月16日）とし、主に電子メールで行った。また、提供の立て看に、申し込みボックスを設置し、募集を行ったが、わずか1件であった。時期としては2月中に依頼が来たのは1件のみで、大部分は3月中旬から下旬にかけてであった。

申し込みの締め切りを3月末とし、メールで申し込みがあった方には後日電話で引き取りの日にちを調整した。

メール申し込み時には、名前・学生証番号・提供物品・サイズ・連絡先の項目についてのフォーマットを用意し、それに書いてもらった。

1-4 引き取り

基本的には駒場キャンパスに近いところはリアカーで、遠いところはレンタカー、もしくは配送業者に頼んだ。日時は、レンタカーを出す日をあらかじめ決めておいてから、提供者がその日で都合がよいならば、レンタカーで引き取りに行ったが、都合が悪い場合は、近い場合はリアカー、遠い場合は配送業者とした。リアカーはオーチューと学生課からお借りした。多くの物品を収集するために、引き取り範囲は限定せずに依頼があったところはすべて承った。

1-4-1 駒場キャンパスから近いところ

リアカーもしくは提供者による持ち込みとした。大体の距離としては、徒歩30分以内くらいの範囲を近いと定義し、ここまでが近いといった詳細な定義は存在しない。

1-4-2 駒場キャンパスから遠いところ

生協でレンタカーの手続きをし、車は2回ほど借りた。レンタカー以外の日は配送業者の方に依頼した。今回はすべて赤帽株式会社に依頼した。物品数には関係なく、距離だけで値段が決定されるため、一度に多くの物品を提供する方がいるリサイクル市では最適な業者といえる。配送業者の方には8,9回ほど依頼した。

<引き取り日程>	
3.11	世田谷区用賀・板橋区(レンタカー)
3.19	豊島区・三鷹市(レンタカー)世田谷区(リアカー)
3.22	本郷(手)
3.24	練馬区(配送業者)
3.25	世田谷区(リアカー)
3.27	北区、文京区(配送業者)
3.29	練馬区(配送業者)世田谷区、目黒区(リアカー)
3.30	文京区2件(キャスト)渋谷区(リアカー)
4.1	文京区・世田谷区(配送業者)
4.3	中野区(配送業者)

1-5 保管

提供された物品の保管場所は、0Cのあるキャンパスプラザ A103 の隣の A 倉庫とオーチャーの 1 号館中庭の紙倉庫を使わせてもらった。引き取ったら、どちらかの保管場所に保管した。

1-6 物品のチェック

物品のメンテナンス・清掃・ナンバリングを受付終了後 4 月初旬に行った。電源を入れ、壊れているようであれば、修理はせずに提供者に返すということも考えていたが、そういうこともなく、無事すべての物品が正常に動いた。購入後に壊れても責任はもてないので免責事項はしっかりと提示しておいた。

ナンバリングは、家電、家具、小物にわけ、種類、サイズ、特徴などが書かれた紙を物品一個一個に張り、またそれらを一括して分かる用紙も作成した。

1-7 会場・資材確保

会場は 3 月中に 0C に学部から新歓広場を貸してもらうように依頼した。また、資材も 0C の協力で確保することができた。

資材としては、搬入するためのリアカー、テント 2 個、机 3 個、ブルーシートなどである。サークルオリは二日間行われるため、一日目の夜に保管するために 1 2 号館のロビーも事前に確保した。

2. 当日

2-1 概要

期間：4 月 7・8 日の 12 時半～17 時まで

午前中は学部ガイダンスのため、新入生は全員参加のため購入しにくる人はいない。そのため、午前中は会場設営に使い、午後から開催することにした。

場所：新歓広場（11、12、13 号館に囲まれたスペース）

内容：本郷進学生、卒業生などから提供された物品を、新入生に安価で提供する。

物品数：約 180 来場者数：約 300 人 申し込み件数：180 件（重複含む）

2-2 システム

購入する際には、以下のルールを設けることにした。

2-2-1 家具・家電の場合

まずは申し込み用紙に書いてもらい、当日引渡し、後日引渡し、配送希望かの 3 通りの引き取り方を選択してもらい、配送希望よりも後日引渡し、後日引渡しよりも当日引渡しを選択した人のほうを優先した。当日引渡しならばその場で代金を徴収し、後日引渡しならば引き取りに来たときに代金を徴収し、配送の場合は配送にいったときに代金を徴収した。

優先順位が一番低いのは、配送である。配送を希望してもあとに後日引き取りや当日引き取りがあると、その予約は取り消されてしまう。配送だけの場合も、住所が駒場キャンパスから一番近い人を選ん

だ。

次に、二番目に優先順位が低いのが後日引き取りである。配送よりは優先順位が高いため、他人の配送の予約は取り消せるが、あとに当日引渡しの人が出てくると予約が取り消されてしまう。当日引渡しがなく、後日引渡しの人だけの場合は後日引渡しの申し込み用紙で抽選を行い、後日連絡する。

一番優先順位が高いのが当日引き取りである。当日引き取りは、当日購入者が持って帰るため、こちらとしても楽である。なので、当日引渡しを希望した方は後日引渡しを希望されている物品でも購入することができる。

2-2-2 小物の場合

小さいので、すべて当日引き取りとして早い者勝ちとした。

2-2 当日の流れ

7日午前 9時ごろに駒場に集合し、保管場所においてある物品を会場に移動させた。

組み立てなければならないものは組み立てた。

7日午後 12時半に会場を開け、リサイクル市が始まった。会場には常に3人から4人の三四郎メンバーを配置し、来場した人々は質問なども受け付けた。売れ行きは好調で半分近く売れた。新入生以外に在學生も来場したため、購入できる人を新入生としていたが、誰でも購入できるようにした。17時は来場する人もいなくなったため、12号館のロビーに残った物品を移動させた。19時ごろリサイクル市1日目が終了した。

8日午前 近くが保管場所だったため、午前10時ごろに集合した。しかし、午前11時ごろに12号館が開いたため、行動することができなかった。急いで準備し、時間ぎりぎりに準備が完了した。

8日午後 7日同様、売れ行きは好調であった。7日に後日引き取りだったものも、8日には当日引き取りで持って帰った方もいる。17時になると、すべての物品をA103に移動した。このときには、紙倉庫を使わなくていいほどまで売れたためであると同時に、夏学期が始まると紙倉庫が使えなくなるためである。すべてが完了したのは20時であった。

3. 当日以降

3-1 抽選

後日引渡し抽選と配送の抽選である。抽選は、三四郎部室で当日二日目の夜、片付けが終ったあと行われた。

後日引渡しの方は駒場まで引き取りに来るので、余計な手間はいらぬ。だから、厳選な抽選となった。配送のほうは、なるだけ近いところを優先し、近いところ同士であれば抽選を行った。

通知は翌日の9日に行った。当選者の発表は、電話をもって伝えた。すなわち、9日中に電話がくれば当選、来なければ落選である。当選者には、引渡し日時、場所をもう一度伝えた。引渡し日時、場所は申し込み控えにも書き、分からなかったということはないようにした。

3-2 後日引渡し

後日引渡しは、11日(水)の放課後と、13日(土)の昼に行った。場所は、生協前。11日の方は午後6時から、13日は午後1時から。結局11日に来ることになっていた人は土曜に変更したため、11日

の後日引渡しはなかった。13日は5人ほどの人が来た。しかし、ここで問題が発生した。もう、当日引渡しで売れたはずのものを後日引渡しで売っていたのだ。これにより、配送として残っていたものを引き渡すことで了承してもらい、配送するはずだった人には、丁寧に謝罪した。

配送は週末13日14日の二日を使い、行われた。物品の数は、二日とも10品程度。朝10時ころから回り、午後3時頃には終了した。交通事故などの問題もなく、無事に引き渡すことができた。

3-3 残り物の処分

残り物のうち、三四郎のメンバーで欲しい人がいたら無料で提供した。それでも残ったものは、東大の環境整備の日にだして、処分した。処分されたものは、冷蔵庫1台、棚1個、机2個、小物が20個くらいであった。

4. 会計報告

支出

理由	金額	日にち
<引き取り>		
レンタカー	6,662	3.19
配送業者	4,000	3.24
	15,000	3.27
	8,400	3.27
	7,000	3.29
	11,560	4.1
	9,980	4.3
	8,400	4.3
	5,000	4.4
<引渡し>		
レンタカー	11,340	4.13
	11,235	4.14
ガソリン代	595	4.13
<その他>		
交通費	5,430	
スタッフ補助	15,328	
コピー代	2,280	
準備費	4,000	
合計	126,210	

収入

理由	金額
前回繰越金	53,302
当日	157,093
合計	210,395

支出合計	126,210
収入合計	210,395
次回繰越	84,185

問題と対策編

1. 前回のリサイクル市から見た改善点

マンパワーの節約化

今年度のリサイクル市のテーマは、いかにしてマンパワーを減らすかであった。毎回のリサイクル市でいわれることが、マンパワーがいりすぎる点である。たしかに、リサイクル市は広報、受付、引き取り、運営、引渡しにいたるまですべての点で人手が必要であった。ここまでがんばっても、リサイクル市で提供できる物品はかぎりがある。引き取りの際に、レンタカーでそう遠くまで行くことができなかったのも、東大生で提供したくても提供できない人もいたのではないだろうか？

そこで、今回はマンパワーをいかにして減らすことができるかに重点をおき、これからはリサイクル市が持続可能であるということを示せるような、対策を取ろうという試みに出た。具体的には以下の二つである。

- ・引き取りを配送業者に依頼することで、引き取りに行くマンパワーを減らす。
- ・申し込みを競争性にするので、配送で引き渡すものを少なくする。

引き取りは今まで遠いところへはレンタカー、近いところへはリアカーで行っていた。しかし、遠いといっても限界がある。そこで、配送業者に頼むことで、マンパワーを削減できるどころか、遠いところからも引き取りを可能にし、提供物品数を多くすることを可能にした。配送業者は「赤帽株式会社」で物品の数ではなく、距離に応じて代金が増加していくので、一気に多くの物品を提供してくださるリサイクル市では一番適していると思われる。

また、申し込みを競争性にするので、欲しい物品があれば自分で持ち帰ってもらうというシステムを確立した。こうすることで、こちらがマンパワーを使い、配送する分も減り、購入した人も抽選という不明確なものより、持ち帰れば優先的に買えるという点ではよかったのではないかと思う。

値段の設定

上記の配送業者に依頼する際に、どうしてもお金がかかる。そこで、その分を物品の値段に上乗せした。上乗せとはいっても人気のある物品に、である。テレビデオやきれいな洗濯機、冷蔵庫は人気があり、少し値段が高くなっても、以前までのリサイクル市が安かったのも、他のリサイクル店などよりは断然安い。そこで、人気のあるものは2千円ほど値上げして、配送業者の値段の分を差し引いても、プラスになるように設定した。会計のとおり、収入の方が少ないという状況は避けられたので、今回のシステム（つまり、マンパワーをお金で解決する方法）でもリサイクル市は成功に終ることができたと思っている。

2. 今年度の課題

無駄な引き取り依頼

配送業者に依頼する際に、一件一件について依頼したため、提供者の家同士が近くても一台の車で運ぶことができなかった。後日、赤帽に電話したところ、複数の家を回り、駒場に来るこ

ともできるようであるし、本郷に近い場合などは、本郷キャンパスを拠点にし、最初はそこに集め、一気に車に運べば、値段は安くなる。効率のいい方法は、値段も環境負荷も減らすことになる。

広報の遅れ

今回のリサイクル市は発足したのが1月末とかなり遅い。そのせいで十分な広報活動ができなかった。広報が開始されたのは、テスト期間が始まってからで、休み期間もポスターを本郷などで貼っていた。1月になった時点で広報ができておけば、もう少し余裕を持って対応できただろうし、より多くの人にリサイクル市を認識してもらえただろう。

マンパワーはまだ必要

今回マンパワーをできるだけ減らそうとはしたものの、どうしても駒場の近くなどはリアカーで引き取りに行くことになる。また、2回ほどレンタカーも出した。これらのマンパワーをもっと減らすことができれば、リサイクル市も存続可能になっていくかもしれない。

リサイクル市の意義

リサイクル市をなぜやるのか？リサイクル市の意義を考えるとときが来ているのはたしかだ。ここまでわざわざする必要もない、近くのリサイクルショップを紹介して、そこに持って行ってもらえばいいし、買う人もそこに行けばいい。しかし、なぜ東大にまで運んで、東大で開催するだろうか？リサイクル市ももっと、新しい風が吹かない限り、持続不可能であることは間違いないのかもしれない。

.資料編

東京大学環境三四郎

駒場リサイクル市 2002 プロジェクト

編集・作成：青山 勝治

2002 年 11 月

HOME PAGE: <http://www.sanshiro.ne.jp>

MAIL: info@sanshiro.ne.jp